

令和8年4月20日16時53分頃の三陸沖の地震について

～「北海道・三陸沖後発地震注意情報」発表に伴う特別な注意の呼び掛け期間の終了について～

本日（4月27日）17時をもって、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」発表に伴う政府としての特別な注意の呼び掛けの期間は終了しましたので、お知らせします。

- 令和8年4月20日16時52分に発生した三陸沖の地震の概要や防災上の留意事項についてお知らせします。
- 本日（4月27日）17時をもって、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」発表に伴う政府としての特別な注意の呼び掛けの期間は終了しました。
- しかし、政府から特別な注意を呼び掛ける期間が終了しても、大規模地震発生の可能性がなくなっただけではありません。
- また、先発の地震がなく、突発的に大規模地震が発生する可能性もあります。
今回の対応も活かしながら、家具の固定や避難場所・避難経路の確認など日頃からの地震への備えについては、引き続き実施してください。

防災上の留意事項と今後の見通し

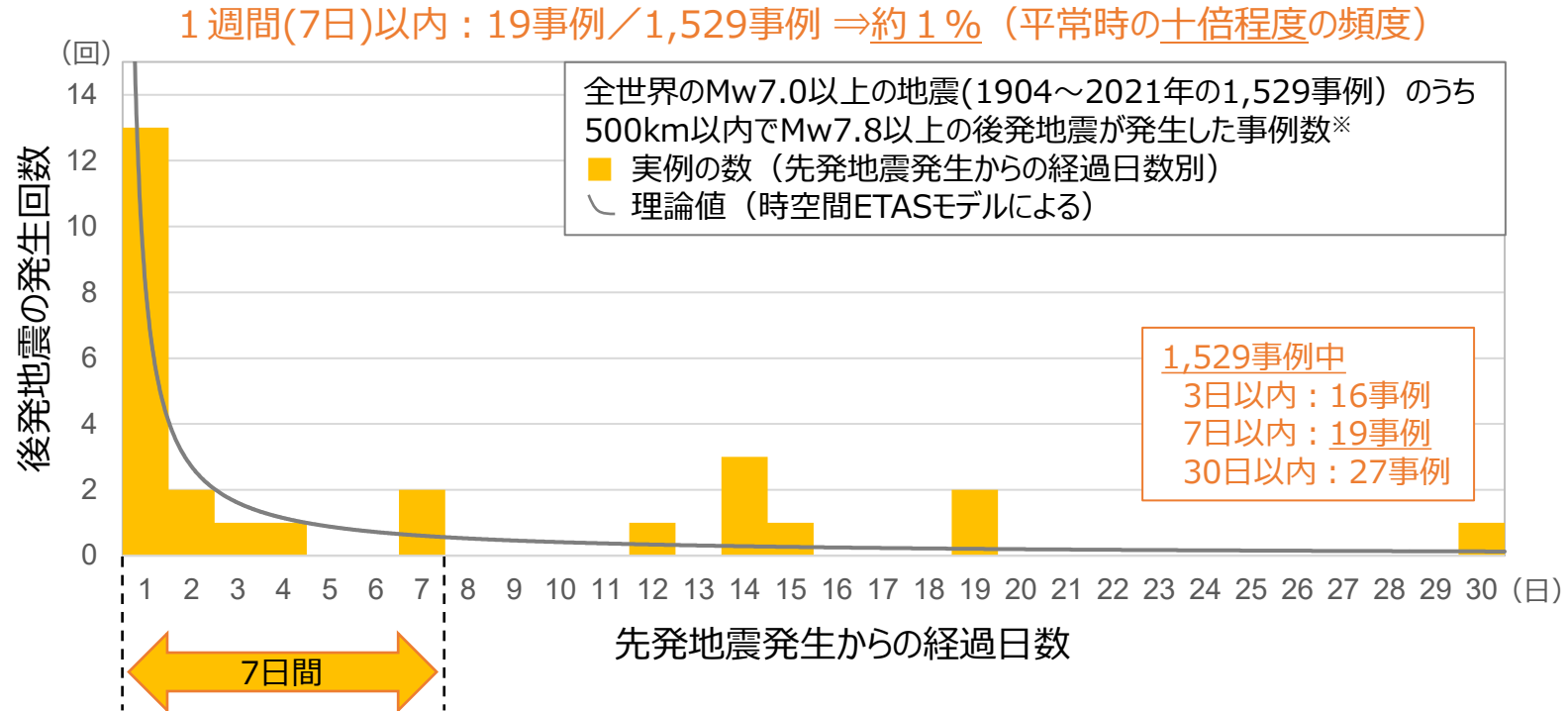
(北海道・三陸沖後発地震注意情報について)

- ・ 4月20日16時52分の三陸沖を震源とする地震の発生後、千島海溝・日本海溝沿いの巨大地震の想定震源域では、新たに後発地震への注意を促す情報を発表する基準を満たす地震は発生していません。
- ・ 4月20日16時52分の三陸沖を震源とする地震の発生から1週間経過したことから、本日(27日)17時をもって、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」発表に伴う政府としての特別な注意を呼び掛ける期間は終了しました。
- ・ なお、過去の世界的事例をみると、最初の地震から1週間以上経過した後に大規模地震が発生した事例もあります。
- ・ 千島海溝・日本海溝沿いにおける地震・津波の発生履歴を見ると、12～13世紀、17世紀と、約3～4百年の間隔で最大規模の津波の発生が確認されており、17世紀の津波からの経過時間を考えると、最大規模の地震・津波の発生は切迫している状況にあると考えられます。
- ・ また、地震調査研究推進本部地震調査委員会の長期評価によると、北海道東部に巨大な津波をもたらすような千島海溝沿いの超巨大地震については、今後30年以内の発生確率はⅢランク(高い)と評価されているほか、千島海溝・日本海溝沿いでは、他にも被害をもたらすような多数の海溝型地震について、今後30年以内の発生確率がⅢランク(高い)と評価されています。
- ・ 千島海溝・日本海溝沿いでは、いつ大規模地震が発生してもおかしくないことに留意し、「日頃からの地震への備え」については、引き続き実施してください。

地震が続けて発生した事例

過去の世界の事例

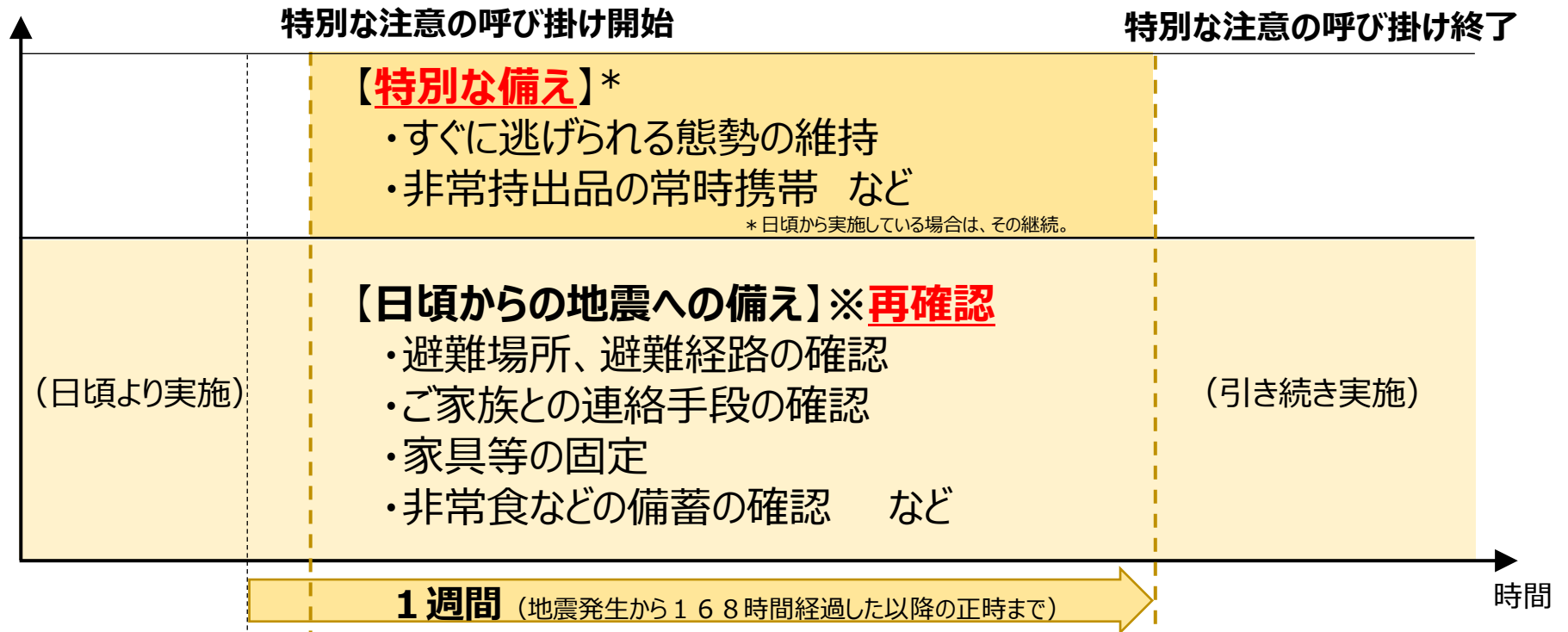
- 過去100年程度の間（1904～2021年）に世界中で発生したMw7.0以上の地震は1,529事例あり、そのうち、地震発生後1週間以内にMw8クラス以上（Mw7.8以上）の地震が発生したのは19事例。
- 世界の事例を踏まえると、Mw7.0以上の地震発生後1週間以内にMw8クラス以上の後発地震が発生する可能性は、百回に1回程度（19事例/1,529事例で、約1%）。



特別な注意の呼び掛け

- 本日(4月27日)17時をもって、北海道・三陸沖後発地震注意情報に伴う **政府として特別な注意を呼び掛ける期間は、終了**しました。
- しかし、大規模地震の発生の可能性がなくなったわけではないことから、**日頃からの地震への備えは、引き続き実施**してください。

防災対応



4月20日16:52
三陸沖
の地震発生

4月20日19:30
後発地震注意情報発表

4月27日17:00
特別な注意の呼び掛け終了

内閣府報道発表資料 (令和8年4月27日17時15分発表)

日頃からの地震への備え

- 政府からの呼び掛けの期間は終了しましたが、大規模地震発生の可能性がなくなったわけではありません。
- 先発の地震がなく、突発的に大規模地震が発生する可能性もあります。
- 今回の対応も活かしながら、避難場所・避難経路の確認や家具等の固定など、日頃からの地震への備えについては、引き続き実施してください。

迅速な避難体制・準備

- ✓ 地域のハザードマップでどのような危険があるかを確認する
- ✓ 安全な避難場所・避難経路等を確認する
- ✓ 家族との連絡手段を決めておく
- ✓ 非常持出品を準備しておく
 - ・食料、水、常備薬
 - ・懐中電灯、携帯ラジオ
 - ・身分証明書、貴重品 等



出火や延焼の防止対策

- ✓ 火災警報器の電池切れがないことを確認する
- ✓ 漏電遮断機や感震ブレーカー等を設置する



室内の対策

- ✓ 窓ガラスの飛散防止対策をする
- ✓ タンス類・本棚の転倒防止対策をする
- ✓ ベッド頭上に物を置かない

地震発生後の避難生活の備え

- ✓ 水や食料の備蓄を多めに確保する
- ✓ 簡易トイレを用意する
- ✓ 携帯ラジオや携帯電話の予備バッテリー等を準備する



地震の概要

検知時刻 (最初に地震を検知した時刻)	4月20日16時53分
発生時刻 (地震が発生した時刻)	4月20日16時52分
マグニチュード	7.7(暫定値;速報値の7.5から更新)
発生場所	三陸沖(宮古の東100km付近) 深さ 19km(暫定値;速報値 深さ約 10kmから更新)
発震機構	西北西—東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、プレート境界で発生した地震
震度	【最大震度5強】青森県の階上町(はしかみちょう)で震度5強を観測したほか、北海道から近畿地方にかけて震度5弱~1を観測
長周期地震動の観測状況	宮城県北部、秋田県内陸南部で長周期地震動階級3を観測

防災上の留意事項と今後の見通し

(三陸沖の地震に関する防災上の留意事項)

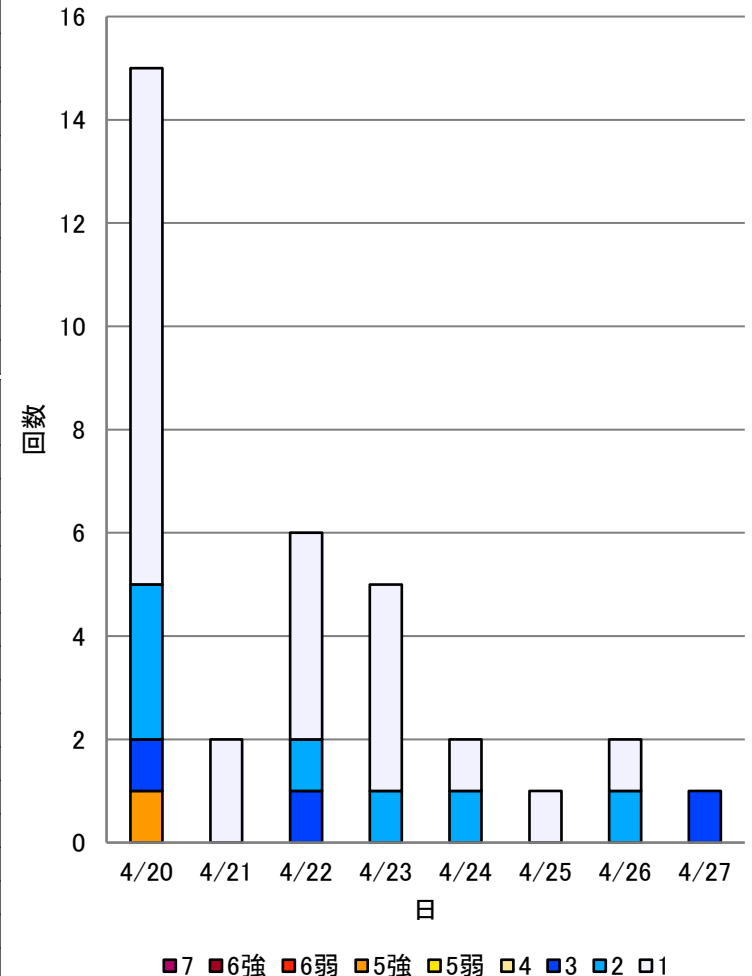
- 4月20日に三陸沖で発生した地震(M7.7)後の地震活動は、当初は活発でしたが、時間の経過とともに低下し、当該地域で4月20日の地震と同程度の地震が発生する可能性は、地震発生当初に比べ低くなりました。
- この3日間(4月24日から4月26日)で震度1以上を観測した地震は5回ですが、身体に感じない地震も含めると平常時より地震が多い状況が継続しており、現状程度の地震活動は当分続くと考えられます。
- なお、今回の地震活動の周辺では、「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」(M7.6)が12月28日に発生した後、翌年1月7日(本震から10日後)にM7.2の最大余震が発生し、被害が生じました。
- 4月20日の地震で揺れの強かった地域では、落石や崖崩れなどの危険性が高まっていますので、復旧作業などを行う場合には、地震活動や降雨の状況に十分注意してください。
- 日本国内では、いつどこで強い揺れを伴う地震が発生してもおかしくありませんので、日頃からの地震への備えを心がけてください。

震度1以上の地震の発生状況

【最大震度別・日別地震回数表】
(4月20日16時～4月27日16時)

日別	最大震度別回数										震度1以上を 観測した回数	
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	累計	
4/20	10	3	1	0	0	1	0	0	0	15	15	
4/21	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	17	
4/22	4	1	1	0	0	0	0	0	0	6	23	
4/23	4	1	0	0	0	0	0	0	0	5	28	
4/24	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	30	
4/25	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	31	
4/26	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	33	
4/27	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	34	
総計	23	7	3	0	0	1	0	0	0		34	

【日別地震回数図】



※掲載している地震回数は速報値であり、後日の調査で変更になることがある。

今回の地震活動

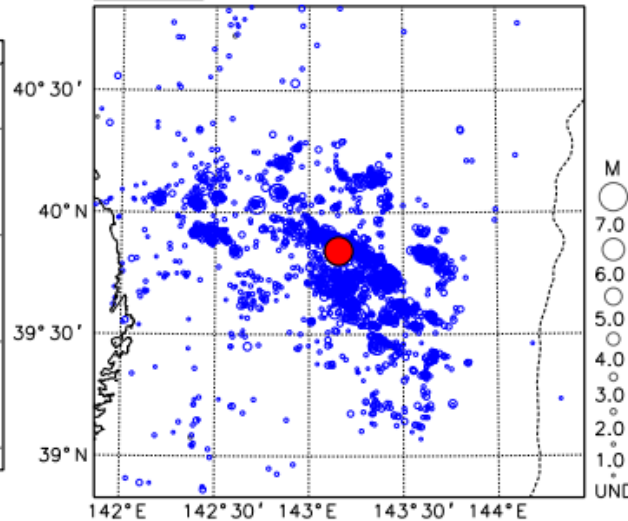
震央分布図（詳細図）

震央分布図（広域図）の四角形領域内の震央分布図

深さ0 -- 100km、 M 全て

2026 04 20 14:00 -- 2026 04 27 16:00

50km

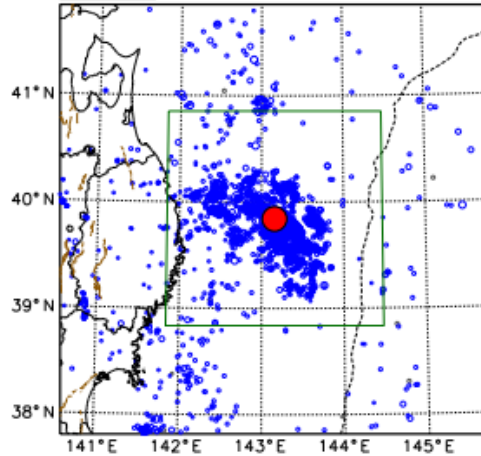


震央分布図（広域図）

深さ0 -- 100km、 M 全て

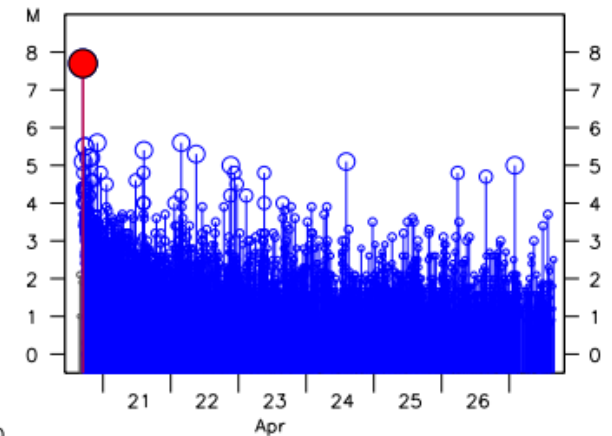
2026 04 20 14:00 -- 2026 04 27 16:00

100km



震央分布図（詳細図）の地震活動経過図

2026 04 20 14:00 -- 2026 04 27 16:00



(震源の色について) 赤色：今回の地震 青色：今回の地震より後に発生した地震 灰色：今回の地震より前に発生した地震

- ・震央分布図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。
- ・震央分布図中の黒色の点線は、海溝軸を示す。

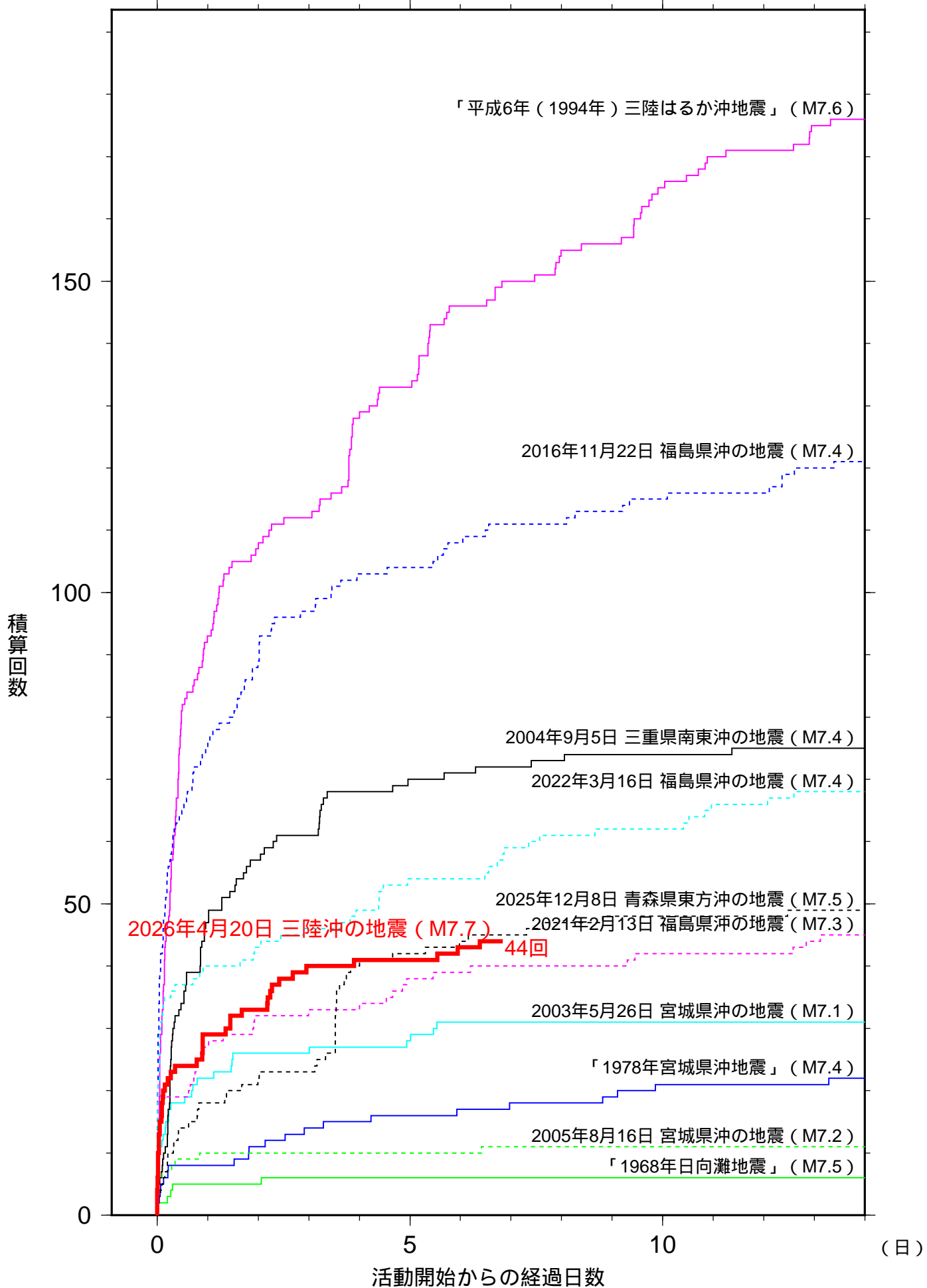
<資料の利用上の留意点>

- ・表示している震源は、速報値を含みます。
- ・速報値の震源には、発破等の地震以外のものや、誤差の大きなものが表示されることがあります。
- ・個々の震源の位置や規模ではなく、震源の分布具合や活動の盛衰に着目して地震活動の把握にご利用ください。

主な地震活動の地震回数比較 (マグニチュード4.0以上)

(回)

2026年04月27日13時00分現在



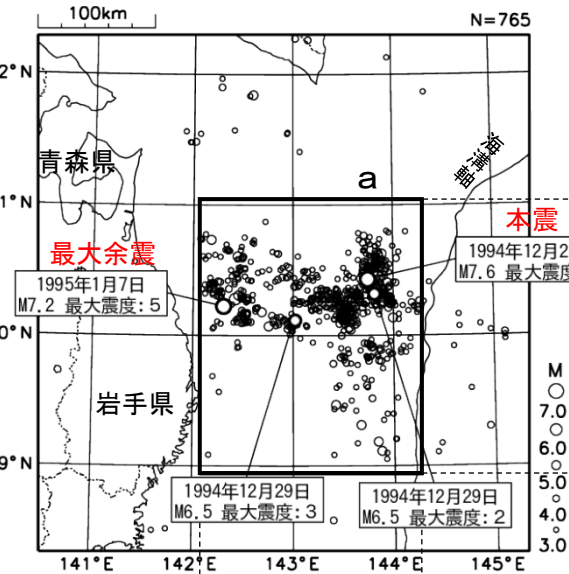
この資料には速報値が含まれており、後日の調査で変更することがある。
今回の地震のマグニチュードについては、これまでの最大を示している。

「平成6年（1994年）三陸はるか沖地震」

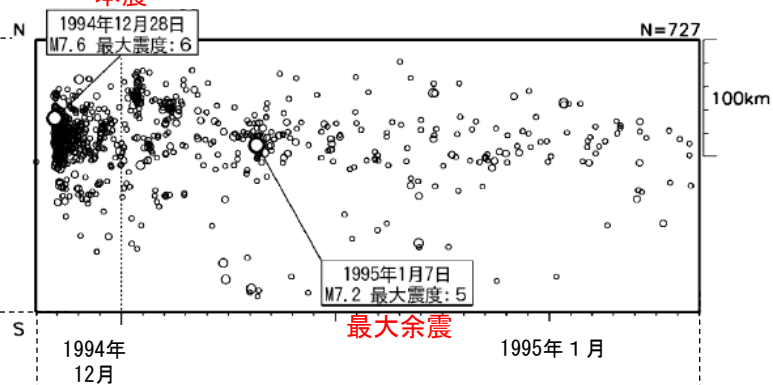
- 震源要素：1994年12月28日21時19分 マグニチュード (M) 7.6
 - 震度：震度6（八戸市）、震度5（むつ市、青森市、盛岡市）
 - 被害状況：死者3人、負傷者788人、住家全壊72棟など（日本被害地震総覧による）（注）
 - 地震活動の経過：M7.6の地震の発生後、地震活動は東西に広がり活発となった。
- 本震から10日後の1995年1月7日07時37分には、より陸に近い場所でM7.2の地震（最大余震）が発生し、最大震度5を観測し被害を生じた。

（注）1月7日に発生した最大余震による被害も含む。
 なお、青森県や岩手県では、本震よりも最大余震の方が被害が大きい地域もあった（日本被害地震総覧による）。

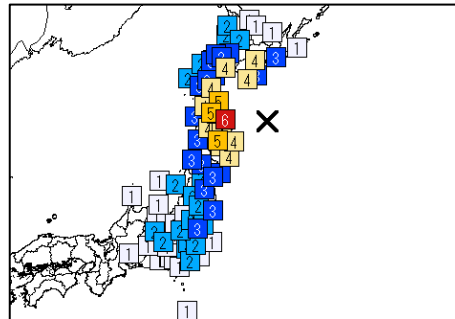
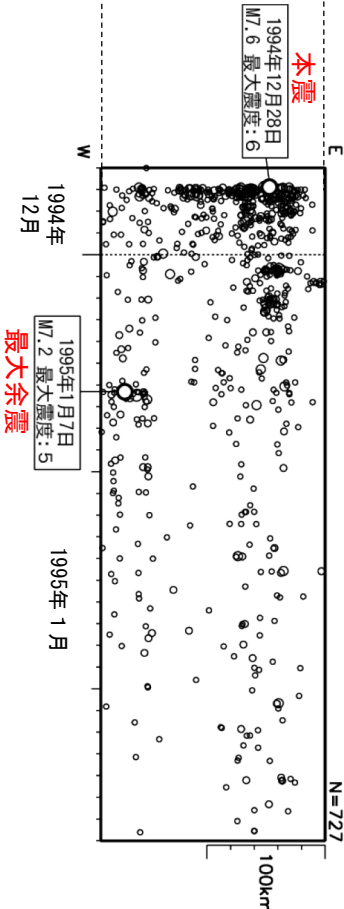
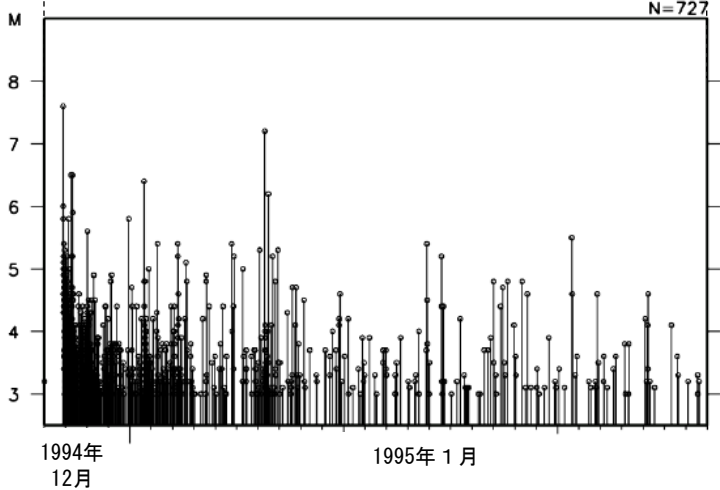
震央分布図
 （1994年12月28日～1995年1月27日、
 深さ0～100km、M≥3.0）



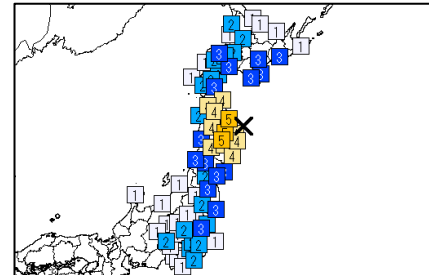
領域 a の時空間分布図（南北投影）



領域 a 内の M-T 図



本震 (12月28日) の震度分布

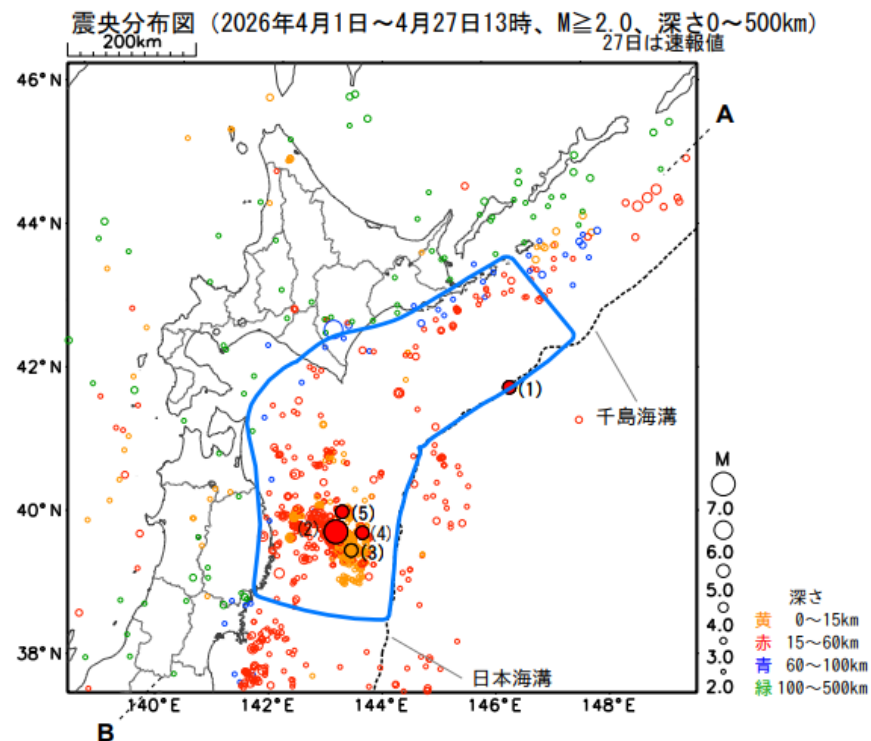


最大余震 (1月7日) の震度分布

領域 a の時空間分布図（東西投影）

最近の千島海溝・日本海溝周辺の地震活動

2026年4月1日～4月27日13時



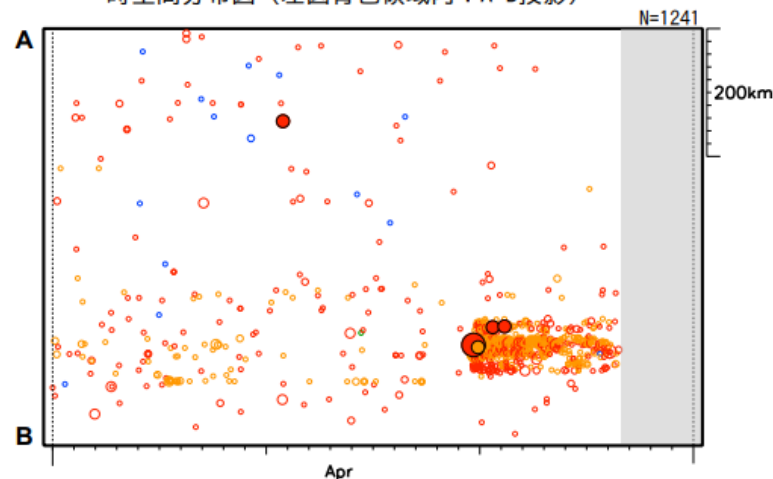
青の実線は千島海溝・日本海溝沿いの巨大地震の想定震源域のうちの「十勝・根室沖」及び「日高・三陸沖」の領域です。震源時、震央地名、マグニチュード等は、再調査により修正することがあります。

【主な地震活動】

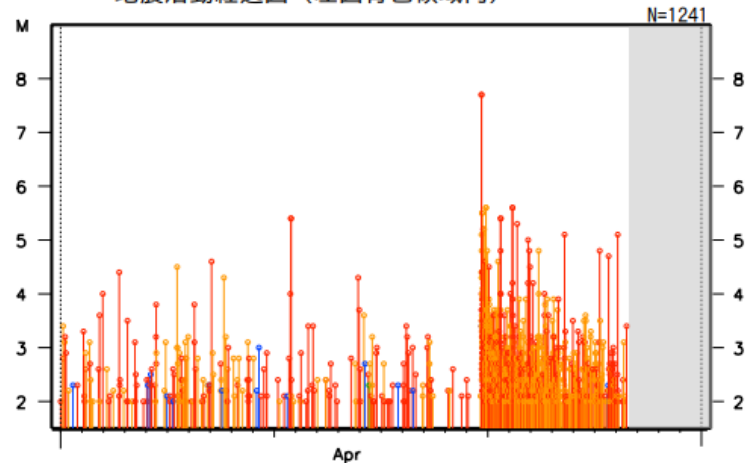
- ・上図青色領域内で発生した $M5.0$ 以上の地震 (最大5つ)
- ・近接して発生した地震については、最大規模の地震のみ記載

- (1) 04月11日 18時49分 $M5.4$ 最大震度2 釧路沖
- (2) 04月20日 16時52分 $M7.7$ 最大震度5強 三陸沖
- (3) 04月20日 21時56分 $M5.6$ 最大震度3 三陸沖
- (4) 04月21日 14時29分 $M5.4$ 最大震度1 三陸沖
- (5) 04月22日 03時44分 $M5.6$ 最大震度2 三陸沖

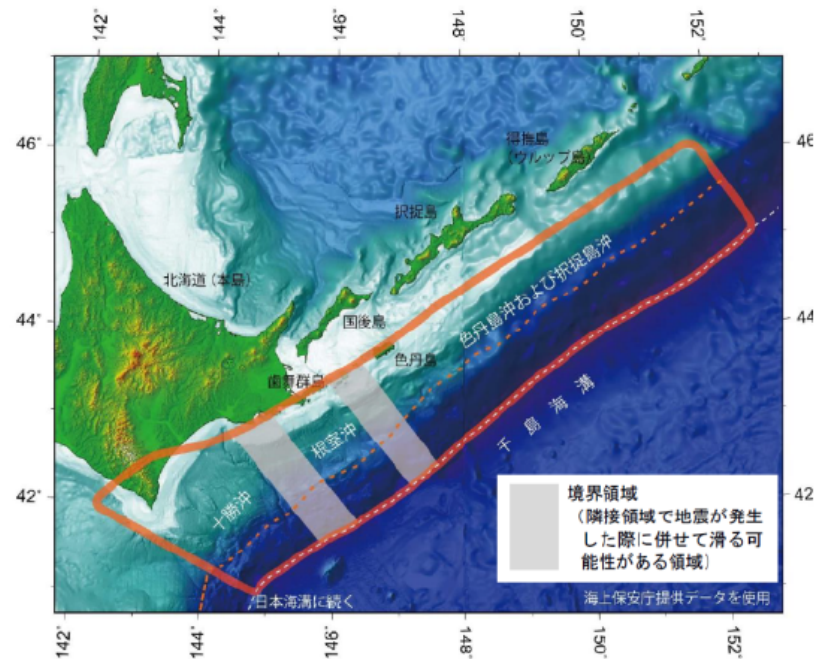
時空間分布図 (左図青色領域内：A-B投影)



地震活動経過図 (左図青色領域内)



● 千島海溝沿いの海溝型地震の想定領域(注1)



赤枠はプレート間地震に関する評価対象領域で、プレート内地震は赤枠外で発生した地震も評価対象。赤い点線は、海溝寄りの領域を分ける線。

● 海溝型地震の長期評価の概要(千島海溝沿い)(注1)

評価対象地震	発生領域	規模	ランク(注2)	平均発生間隔
超巨大地震 (17世紀型)	十勝沖から択捉島沖 (根室沖を含む可能性高い)	M8.8程度以上	Ⅲ*ランク	約340年～380年
プレート間 巨大地震	十勝沖	M8.0～8.6程度	Ⅱランク	80.3年
	根室沖	M7.8～8.5程度	Ⅲ*ランク	65.1年
	色丹島沖及び択捉島沖	M7.7～8.5前後	Ⅲランク	35.5年
ひとまわり小さい プレート間地震	十勝沖・根室沖	M7.0～7.5程度	Ⅲランク	20.5年
	色丹島沖及び択捉島沖	M7.5程度	Ⅲランク	13.7年
海溝寄りの プレート間地震 (津波地震等)	十勝沖から択捉島沖の海溝寄り	Mt8.0程度	Ⅲランク	39.0年
沈み込んだ プレート内の地震	やや浅い領域(深さ50km程度)	M8.4前後	Ⅲランク	88.9年
	やや深い領域(深さ100km程度)	M7.8程度	Ⅲランク	39.0年
海溝軸外側の地震	千島海溝の海溝軸外側	M8.2前後	Xランク(注3)	—

(注1) 2017年12月19日公表の「千島海溝沿いの地震活動の長期評価(第三版)」より引用。

(注2) 海溝型地震における今後30年以内の地震発生確率が26%以上を「Ⅲランク」、3%～26%未満を「Ⅱランク」、3%未満を「Ⅰランク」、不明(すぐに地震が起きることを否定できない)を「Xランク」と表記しています。ランクに「*」を付記している場合は、地震後経過率が0.7以上を表しています。

(注3) 海溝軸外側の地震については、過去に発生した履歴が無く、確率は不明です。しかし、評価対象領域の北東側では2007年にM8.2(Mw8.1)が、隣接する日本海溝沿いの領域では1933年にM8.1(Mw8.4)の地震(昭和三陸地震)が発生しているため、同様の規模の地震が千島海溝でも発生する可能性があります。

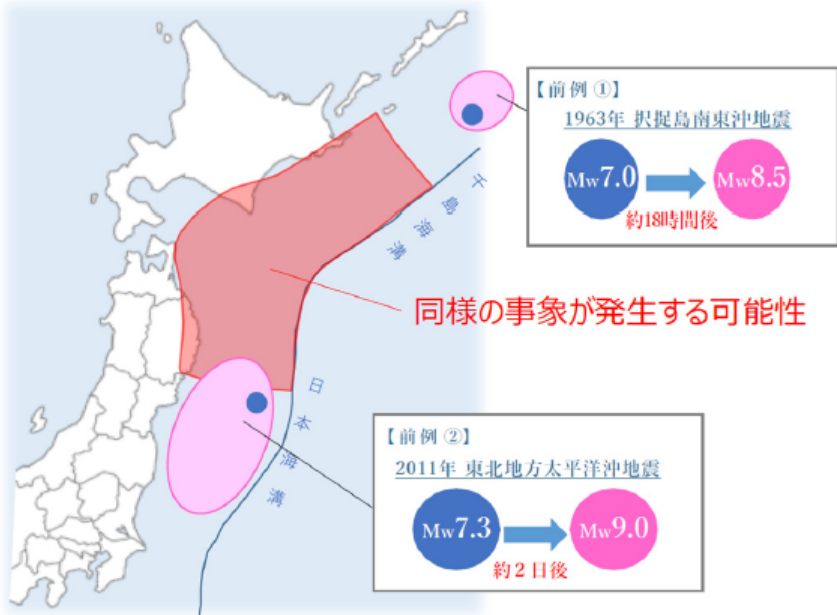
※本資料は以下を基に作成しました。

「活断層及び海溝型地震の長期評価結果一覧」(地震調査研究推進本部) <https://www.jishin.go.jp/main/choukihyoka/ichiran.pdf>

「千島海溝沿いの地震活動の長期評価(第三版)」(地震調査研究推進本部) https://www.jishin.go.jp/main/chousa/kaikou_pdf/chishima3.pdf

(参考) 地震が続けて発生した事例

千島海溝・日本海溝沿いの事例

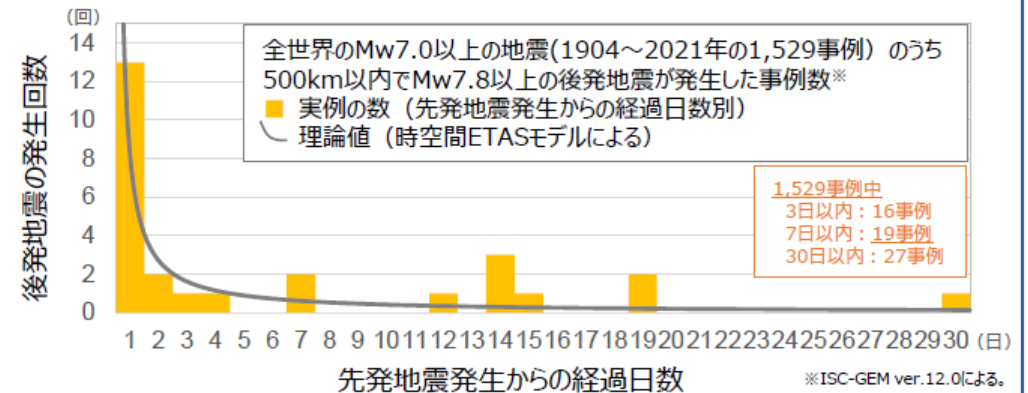


- 2011年に三陸沖においてMw7.3の地震が発生した2日後にMw9.0の巨大地震（東北地方太平洋沖地震）が発生。
- 1963年に択捉島南東沖においてMw7.0の地震が発生した18時間後にMw8.5の地震が発生。

過去の世界の事例

Mw7.0以上の地震に続いて、Mw7.8(M8クラス)以上の地震が発生した事例の発生パターン

1週間(7日)以内：19事例／1,529事例 ⇒約1%（平常時の十倍程度の頻度）



- Mw7.0以上の地震発生後、7日以内にMw 8クラス以上（Mw7.8以上）の大規模地震が発生するのは、百回に1回程度。

○「北海道・三陸沖後発地震注意情報」では、後発地震が実際に発生する確率は低いものの、巨大地震が発生した際の甚大な被害を少しでも軽減するために、新たな大規模地震の発生可能性が平常時と比べて相対的に高まっていることをお知らせします。

○後発地震が発生する可能性は、先に発生した地震が起こった直後ほど高く、時間を経るにつれて低くなっていきますが、ゼロになるわけではありません。